

編集後記

今月の特集には「性の問題」をとりあげた。これはリハビリ医学が人間性の復権を求めるものであれば、必然的に当面しなければならないものといえる。しかしながら、患者のもつ性の悩みは医療者の悩みでもあり、この問題については患者も医療者もタブーとしてさけて通ってきたのが現状であろう。

米国においてリハビリ患者、ことに脊損者に対する性教育がはじめられて10年たち、今や医学生にも講義がおこなわれている。東洋思想をもつ日本人はこういう問題については、とにかくがてだという話もきくが、敬虔なキリスト教思想をもつ人々にはもっと性に対して開放的であると考えるのはまちがっている。事実、筆者も米国での脊損者に対する性教育のワークショップに出席して、いかにリハビリ医療者が患者と、また、スタッフ同士で frank に話しあえる 雰囲気をつくるのに苦労しているかを経験した。

本号では、まず、石井氏に男性の性機能の生理学を解説していただいた。小此木氏は精

神神経科医としてリハビリ医療での性の問題の重要性を consultation liaison psychiatry という分野をとうして説明された。宮崎氏らと蜂須賀らは脊損者の性機能とその実態を、また、白井氏と大工原氏は老人の性につき、その現状をのべておられる。ことに宮崎氏らと白井氏は具体的に補助具の使用についても言及されている。このように、わが国においても一部の施設や医療者によってようやく「性の問題」が真剣にとりくまれはじめたといえよう。

中新井氏の二分脊椎症児の排泄訓練や、森松氏らの脳性麻痺の病理の講座は多くの症例をとうしてできあがったもので興味あるものである。

鎌倉氏らの手の機能分類の論文は前月号にひきつづいて、その観察力の細かさにはおどろかされる。二本氏らの米国のリハビリ医療の紹介とあわせていずれも読みごたえのあるものとなった。

(千野 直一)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第12号)

特 集 社会リハビリテーション

座談会／社会リハビリテーションとは何か

.....国立職業リハセンター 小 川 孟・他

社会リハビリテーションの国際的動向

(国際障害者年にむけて)日本女子大 小 島 蓉 子

重度障害者の就労(ワーク・アクティビティ・

センターを中心に)都身障センター 三ツ木 任 一

障害者の所得保障東京コロニー 調 一 興

障害者と結婚千葉県身障者結婚相談所 長谷川 茂 代

講 座 リハビリテーションにおける治療(12)

(車椅子訓練)横浜市大 大 川 嗣 雄・他

脳性麻痺の周辺(6)(未熟児)日本大学 井 村 総 一・他